

かけ橋

まだ見ぬ君へ…

まちかど
ネットワーク

今回は、市内六校の高校の生徒が学校の枠を超えて集まり、福祉活動や富士まつりのかぐや姫絵巻への参加など、さまざまな活動をしている高校生の会「糸」を紹介します。

富士市高校生の会
「糸」

この会はロータリークラブが主催した「新世代会議」に市内六高校の生徒が集まつたことがきっかけで、平成九年に発足しました。会議終了後、せっかくだから六校で何かしてみようと、まず最初に発展途上国に学校をつくることを目標に牛乳パックの回収を始めました。その後も、みんなで計画を立て、市民福祉まつりへの参加や福祉施設でのもちつきなど活発な活動をしています。

会員の皆さんには次のように話してくれました。

「この会はできて間もないけど、今どきの高校生というイメージで判断する大人もいますけれど、自分たちのやりたいことを見つけ、実行していくときの高校生パワーはすごいものがあります。会議などでも意見が飛び交って、まとめるのが大変なときもあります。それに、六高校の生徒が集まると人数も多いので、できることの可能性が広がりますね。

今後の新しい活動としては、市内の中学校との交流活動を考えています。これもまだ交渉段階なのですが、中央公園に掲示板を設けてもらつて、各高校が順番に工夫を凝らした学校紹介をしていくという計画があります。また、企画運営から高校生手づくりのフリーマーケットを来年の一月に中央公園で予定しています。ステージを設け、いろいろなイベントも用意するつもりです。ぜひ足を運んでみてください。」



れど、いろいろな活動をしています。ボランティアだけでなく、高校生だからこそできることや、今しかできないことに挑戦しています。確かに勉強も大切ですが、それだけの高校生活ではつまらないですね。それに、自分の学校以外の人と話をするのは刺激になります。

山口さん 口さんの家は八十年以上続く八百屋さん。山口さんはことし八十歳になりますが、店の切り盛りに加えて、朝早くから市場に出かけ、競りに参加して野菜の仕入れもしています。競りを始めてから、病気などで、休んだことが一度もないのが自慢です。市場の中を歩き回ると顔なじみの仲間に次々と声をかけられます。このときの会話が楽しめで市場に来ることがやめられないそうです。

市場の仲間は口が悪く『よくこの夏越えられたね』なんて平気で言う人ばかり(笑)。でも、そんなせりふは親しみの裏返しで、みんな優しい人たちです。さっぱりしていて、気を使わなくて、刺激的な市場の雰囲気が大好き。市場は私の元気の源です。会社勤めと違い定年がないので、もう競りは無理だなと思うまでやめるつもりはありませんね」と話してくれました。



ひと

富士市公設地方卸売市場
最高齢の野菜買受人

山口 さいさん
(吉原2)



市場の仲間は口が悪く『よくこの夏越えられたね』なんて平気で言う人ばかり(笑)。でも、そんなせりふは親しみの裏返しで、みんな優しい人たちです。さっぱりしていて、気を使わなくて、刺激的な市場の雰囲気が大好き。市場は私の元気の源です。会社勤めと違い定年がないので、もう競りは無理だなと思うまでやめるつもりはありませんね」と話してくれました。